

## 地域衰退ループ

## 5つの要因と対策、成功事例は

「地域衰退ループ」とは、地方で人口減少や経済縮小などの負のサイクルが回っている状態を指します。

これに嵌（は）まる主な要因は、①少子高齢化と人口減少、②地元産業の衰退と雇用の減少、③インフラ整備の遅れ、学校統廃合や公共交通の廃止、④住民の交流、伝統行事の衰退、⑤投資が進まず、人材不足などで、簡単に脱出できません。

藤島地域は、「地域衰退ループ」に嵌（は）まるといえます。

①藤島地域のゼロ歳児は、9月末の住民基本台帳では40人で、1歳児55人から15人も減って、少子化ショックは隠せません。

②旧藤島町の誘致企業第1号の（株）スタンレー鶴岡製作所は9月26日、連結親会社のスタンレー電気（株）に吸収合併が決まり、2025年2月1日契約締結、4月1日解散。

③インフラ整備では、庄内南部中央道路（旧藤島バイパス）は一部も進まず、道路の新設

はありません。

庄内交通清川線は、来年3月末に廃止となり、対策では、デマンドから別の車に乗換の不便さが課題です。

8年後の2032年度開校予定の義務教育学校で、市内で最も古い1968年度建設の藤島中学校改築がいつそう遅れます。

雨漏りの藤島児童館改築も、文厚エリア検討の先延ばしとなり、小中一貫校が持ち込まれた弊害です。

子育てインフラ保つ対策は、子育てインフラを保ち、整備することが、地域存続の第一条件です。

成功例では、岐阜県山県市の事例があり、小規模校の維持で教育

## ふるさと賛歌

### 鈴木重雄 八色木

太平洋戦争開戦  
12月に入ると、庄内平野は鉛色の空に覆われて、人の気持ちまで憂鬱（ゆううつ）になってくる。

忘れもしない昭和16年（1941）12月8日に、日本海軍が真珠湾（ハワイ）でアメリカ艦隊を奇襲攻撃し、悲惨な太平洋戦争が始まった日である。

この日は、朝から曇（みぞれ）が小雪に変わり、風はないが底冷えする日であった。

八栄島小学校は、昇降口から入ると左側が教室で、真つすぐ幅広い廊下の右側に、下駄箱が並んでいて、体操場に入る。体操場は今、旧農協の倉庫が建っている所で、広さも今の倉庫と同じ坪数である。

渡り廊下の軒下にモミジの木があった。私は、体操場の窓からモミジの枝に少しづつ積

もつていく濡れ雪が、今でも心に残る。喜びでもなく悲しみでもない、12月の鉛色の空のような気持ちであった。満州事変と日中戦争、そして太平洋戦争へと長い戦時体制に入ったのである。

体操場の壁には、日本海軍が真珠湾攻撃した戦果が貼られていたのを覚えている。私が小学校高等科2年のときである。

この頃から、農家の働き手が軍隊や軍需工場に徴収され、農作業にも学童が動員される長い戦争体制に入った。

5年生担任の佐藤松作先生は尾花沢市出身で、朝鮮の日本語学校に家族ぐるみで転任した。

6年生担任の鈴木文雄先生は天童市出身で、3ヶ月後に現役入隊し、そのまま帰ることはなかった。

美山小と一緒に合同授業に取り組んでいます。「消滅可能性自治体」を脱却した三川町

## 町別各歳別男女

旧藤島町 抽出条件 大字コード301100以上	年齢	男性	女性	合計
	0	23	17	40
	1	32	23	55
	2	26	22	48
	3	26	19	45
	4	17	25	42
	5	23	29	52
	6	32	23	55
	7	29	31	60
	8	28	32	60
	9	33	40	73
	10	26	32	58
	11	38	27	65
	12	34	38	72
	13	26	39	65
	14	51	35	86
	15	33	39	72
	16	54	41	95

鶴岡市HP「住民基本台帳人口」9月末データ



藤島児童館2階の雨漏り（12/4南波純議員撮影）

合併しない三川町は、国道7号北バイパスの整備以降、全農米倉庫や、産業団地（第4期）造成が進んでいます。子育て交流施設「テオトル」が2020年7月オープンし、「テオトル三本木」の住宅分譲も進み、「消滅可能性自治体」を脱却しました。

# 庄内農高同窓会 藤島地域交流会

庄内農業高等学校の瑞穂同窓会藤島地域連絡協議会（工藤正喜会長）の第6回地域交流会が8日、藤島地区地域活動センターで開かれ、50人超の人たちが参加しました。

講演では、同窓会長で、元オリンピック選手の齋藤隆氏が、「スポーツのもつ力」と題して話されました。

1979年アジアウエイトリフティング選手権60kg級で、優勝した当時の映像が上映され、会場から映像に向かって、「がんばれー」と臨場感あふれる声援が飛び交いました。



来賓挨拶では、庄内農高の酒井孝校長が、「庄農」の名前の宣伝効果は抜群。庄農産のお米も、地元の小学校

などで皆さんから購入いただき、地域の応援はすばらしいと感謝のことばがありました。



（酒井孝校長）



（工藤正喜氏（右）が、講演した齋藤隆氏に記念品を贈呈）

## 東田川史跡物語 山形県の乾田馬耕② 庄内で進む

### 青山 崇

明治23年、県知長谷部辰連は農商務省に巡回教師の派遣を要請した。

省内には横井時敬同様、東京農林学校農学科を卒業し、農務省仮試験場主任志岐守秋（108歳写真）がおり、かたわら各県の農事巡回教師をしていた彼を派遣した。



このほど、『民報』2024年2月18日掲載の「ふるさと賛歌」八色木葉師堂の「力石」について、寸法の問い合わせがありました。



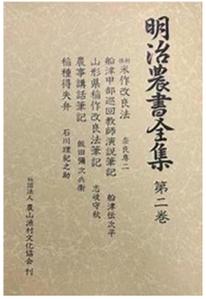
日本の力文化として、「力石」を研究している高島慎助・元四日市大学教授からで、資料は三重県総合博物館にすべて収蔵されているとのこと。

「力石」は、相撲の朝日嶽が持つてきたもので、長さ58cm×幅30cm×高さ33cmでした。

県内には8月から9月まで45日間滞在し、

東田川郡では、山添村・藤島村・余目村で稲作講話を行った。

その講話は『山形県稲作改良筆記』（「明治農書全集第2巻所収」という冊子にして県下に配布された。



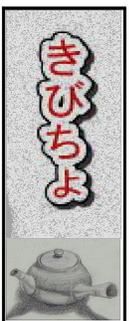
内容は、選種・拔穂・種籾貯蔵・種籾水浸法・播種・苗代・稲の種類・肥料・乾田・牛

馬耕・排水・灌漑・除草・刈割と乾燥など稲作新技術のほぼ全てに渡るものであった。

翌年4月から5月の32日間県内を巡り講話した。

こうして2度にわたる講話は、農民の稲作改良の考え方を変える大きな役割を果たした。しかしその考えになつたのは地主が多く、小作農民までの普及は

難しかった。そこで、地主は馬耕技術に優れた若勢に米1俵を料外に提供するなどする一方、反対に馬耕しない小作人に耕地を貸さないと言った。じくじくを経過を経て明治29年に、水田総面積1万3871町歩のうち8600町歩、総面積の6割強が乾田になった。



### 昔人の知恵

我が家には食後のデザートになる物が色々ある。春のいちごはジャムにもなる。夏は上手いかな年が多いが、スイカにメロン。

秋先はイチジクに続いて庄内柿。これは出荷しないので、知人や親せきに送つてもまだまだあるから、軒先に吊るす事になるが、同期に伝九郎もあるんだ。

▲この柿。俺が物心ついて、親から畑に連れて行かれた時に、二股に挟まって遊んだ記憶があるから、この木は80歳を超えた俺より年寄りなんだ。それでも今年も一杯成ったヨ。庄内柿よりも糖度が高いかも。晩秋には俺が植えたキウイだ。

▲キウイの収穫は田の神あげ。つまり勤労感謝の日だから11月23日にしているが、直ぐには食べられない。りんごと一緒に寝かせるので、正月にもある年もある。

▲俺がたしか小学校6年の年に親父が家を建てたんだが、屋敷が狭いと切られた果樹は、桃・栗・黄桃といったが、サクランボに梨も2種類あった。木ざわしの柿もだ。かじって「渋いけ」と言うので孫婆さん、かまどの暑いから灰汁に埋めるんだ。すると渋かった柿が甘くなるのだった。昔人の知恵だ。

▲湯ざわしはデフジと言っていたから大宝寺という柿があったのか。これの大きさは庄内柿より大で、今のトマトの桃太郎みたいなあの形だった。

▲もともと三反歩百姓でお金がないからと、孫爺さん。子どもの成長に合わせて大きくなる、成り木を植えたんでしよう。これも昔人の知恵か。

独り者 ユンが仕掛けた クーデター あれを見りゃ 持たせ ちゃならねえ 特措法 特措法 憲法変えて 狙ってる (石川)